

第一條

遠洋航路補助法案  
遠洋航路補助法案  
航海獎勵法對照

第一條

航海獎勵法  
航海獎勵法

民又ハ帝國臣民ノミヲ社  
員若ハ株主トスル商事會  
社ニシテ運送業ヲ営ム者  
ニ本法ニ依リ航海補助金  
ヲ支給シ三年以上十年以  
下ノ期間ヲ限リ左ノ遠洋  
航路ニ於テ定期航海ニ從  
事セシムルコトヲ得

臣民ノミヲ社員若ハ株主  
トスル商事會社ニシテ自  
己ノ所有ニ專屬シ帝國船  
籍ニ登録シタル船舶ヲ以  
テ帝國ト外國トノ間又ハ  
外國諸港ノ間ニ於テ貨物  
旅客ノ運搬ヲ營業トスル  
者ニハ此ノ法律ノ規程ニ  
依リ其ノ船舶ニ對シ航海  
獎勵金ヲ下付ス

一 歐洲航路  
二 北米航路

三南米航路  
四濠洲航路

本法ニ於テ補助航海ト稱  
スルハ前項ニ依ル定期航  
海ヲ謂フ

第二條 補助航海ニ使用スル船ハ総噸數三千噸以上ニシテ一時間に十二海里以上ノ速力ヲ有シ主務大臣ノ定ムル且帝國船籍ニ登錄シ合

製汽船ニ限ル  
格シ且帝國船籍ニ登錄シ合  
臣ノ定ムル造船規程ニ合  
以上ノ速力ヲ有シ主務大臣  
以上ニシテ一時間に十二海里  
ル船ハ総噸數三千噸以上

第二條 此ノ法律ニ依リ航海獎勵金ヲ受クヘキ船舶ハ総噸數一千噸以上ニシテ一時間に十海里以上ノ速力ヲ有シ通信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シ又ハ鋼製汽船ニ

限ル  
夕タル鐵製又ハ鋼製汽船ニ  
強速力ヲ有シ通信大臣ノ  
テ一時間に十海里以上ノ最  
定ムル造船規程ニ合格シ

船ノ速力ハ主務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ算  
定ス

第三條 航海獎勵金ヲ受ケ

ムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ通信大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第四條 左ノ船舶ハ航海獎勵金ヲ受クルコトヲ得ス  
第一 此ノ法律施行以後

帝國船籍ニ登錄ノ際製  
造後五箇年ヲ經過シ夕  
ル外國製造ノ船舶

第三條 外國製造ノ船舶ハ

補助航海ニ使用スルコト  
ヲ得ス但シ帝國船籍ニ登

録ノ際船齡五年以内ノ船  
由ニシテ其ノ使用ニ關シ

主務大臣ノ認可ヲ得タル  
モ、ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 航海補助金ハ使用  
船噸數一噸航海里數  
一千海里ニ付速力一時間  
十二海里ヲ有スルモノニ  
對シ五拾錢以内速力一時  
間一海里ヲ増ス毎其ノ  
百分ノ十ヲ増シタル金額  
以内、於テ航路ノ狀況ニ

應シ之ヲ支給ス但シ船齡  
五年ヲ超ユル船舶ニ對シ  
テハ一年毎ニ其ノ百分ノ  
五ヲ遮減ス

第二 製造後十五箇年ヲ  
經過シタル船舶  
第三 帝國政府ノ命令ニ  
依レル航路ニ使用スル  
船舶

第五條 航海獎勵金ハ總噸  
數一千噸ニシテ一時間十  
海里ノ最速力ヲ有スル  
船舶ニ對シ總噸數一噸航  
海里數一千海里ニ付二十  
五錢ヲ支給シ總噸數五百  
噸ヲ増ス毎其ノ百分ノ十  
最速力一時間一海里ヲ

増ス毎其ノ百分ノ二十  
ヲ増給ス但シ總噸數六十  
五百噸以上又ハ最速力  
一時間十八海里以上ノ船  
舶ニ對シテハ總噸數六十  
噸又ハ最速力一時間十  
七海里ノ船舶ニ對スル割  
合ニ依リ支給ス  
航海獎勵金ハ製造後五箇  
年ヲ經過セタル船舶ニ對  
シテハ金額ヲ支給シ五箇  
年ヲ經過シタル船舶ニ對  
シテハ一年毎ニ其ノ百分

外國製造ノ船舶ニ對シテ  
ハ前項ノ規定ニ依リ支給  
スヘキ航海補助金ノ半額  
ヲ支給ス

特ニ主務大臣ノ認可ヲ得  
タル設計ニ依リ製造シタ  
ル船舶又ハ定期航海ノ開  
始後五年ヲ經過セザル航  
路ニ使用スル船舶ニ對シ  
テハ前二項ノ規定ニ依リ

支給スヘキ航海補助金ノ  
百分ノ二十五以内ヲ増給  
スルコトヲ得  
航海補助金ノ算定ニ於テ  
ハ航海里數ハ各港間ノ最  
近航路ニ依リ噸未滿又  
ハ一海里未滿ノ端數ハ之  
ヲ除算ス

ノ五ヲ逕減ス  
明治三十二年十月一日以  
後帝國船籍ニ登録スル外  
國製造ノ船舶ニハ前二項  
ノ規定ニ依リ支給スヘキ  
航海奨励金ノ半額ヲ支給  
ス

航海奨励金ヲ算定スルニ  
ハ一噸未滿一海里未滿ノ  
端數ヲ算入セズ  
第六條 航海里數ハ各港間  
ノ最近航路ニ依リ之ヲ算  
定ス  
帝國各港へ寄港シ外國へ  
發航スル船舶ニ在テハ最  
終ノ寄港地ヲ起點トシ又  
外國ヨリ發航シ帝國各港

第五條

旅客貨物ノ運賃ハ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルヘシ  
主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ種類ヲ指定シ旅客貨物ノ運賃ヲ低減セ

寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里数ヲ算定スルハ航海里数ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第六條

船舶ニハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ郵便物及郵便用品ヲ無賃ニテ搭載シ無線電信ノ通信ニ關スル設備ヲ為シ且通信事務又ハ航路視察ノ為主務大臣ノ派出スル吏員ヲ無賃ニテ乗船セシムヘシ

第十條

第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海獎勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ通信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乗船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物小包郵便物郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ運送スヘシ

第七條

補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル

所ニ從ヒ定期航海ノ維持  
ニ必要ナル施設ヲ為スハ

第八條 補助航海ニ從事ス

ル者ハ主務大臣ノ定ムル  
所ニ從ヒ左ノ割合以内ニ  
於テ其ノ費用ヲ以テ航海  
修業生ヲ使用船舶ニ乗組  
マシムヘシ

總噸數三千噸以上五千  
噸未満 四人  
總噸數五千噸以上八千  
噸未満 五人

第八條 第三條ノ認許ヲ受

ケタル船舶ノ所有者ハ速  
信大臣ノ命令ニ依リ左ノ  
割合以内ニ於テ其ノ費用  
ヲ以テ航海修業生ヲ該船  
船ニ乗組マシメ同大臣ノ  
定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千  
五百噸未満 二人  
總噸數二千五百噸以上

總噸數八千噸以上 六人

第九條 補助航海ニ從事ス

ル者ハ主務大臣ノ認可ヲ  
受クルニ非ナレハ外國人  
ヲ其ノ本店若ハ支店ノ事  
務員又ハ使用船舶ノ職員  
ト為スコトヲ得ス  
外國ニ於テ死亡其ノ他已  
ムヲ得サル事由ニ因リ使  
用船舶ノ職員ニ缺員ヲ生  
シタルトキハ前項ノ規定  
ニ拘ハラズ之ヲ補フコト

第九條 第三條ノ認許ヲ受

ケタル船舶ノ所有者ハ速  
信大臣ノ許可ヲ受クルニ  
非ナレハ外國人ヲ其ノ本  
支店ノ事務員若ハ該船舶  
ノ職員ト為スコトヲ得ス  
但シ外國ニ於テ死亡其ノ  
他止ムヲ得サル事故ニ因  
リ船舶職員ニ缺員ヲ生シ  
タルトキハ該地官廳ノ公  
認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ

總噸數四千噸以上 四人  
總噸數四千噸未満 三人

第十條 補助航海ニ從事スル者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ補助航海ニ関スル收支計算書及營業狀況報告書ヲ提出スヘシ  
 主務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ補助航海ニ從事スル者ノ本店支店代理店又ハ使用船舶ニ吏員ヲ

得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ通信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

派遣シ其ノ收支計算及營業狀況ヲ監査セシムルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ補助航海ニ從事スル者ハ當該吏員ノ求ムル所ニ從ヒ業務上一切ノ事項ヲ開申シ帳簿其ノ他一切ノ文書ヲ檢閲ニ供スヘシ

第十一條 主務大臣ハ相當ノ補償金額ヲ定メ補助航海ニ使用スル船舶ヲ公用ノ爲收用又ハ使用スルコ

第七條 通信大臣ハ命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用

トヲ得  
補助航海ニ使用シタル船

船ニ付テハ最終ノ航海ヲ  
終リタル日ヨリ三年間仍

前項ノ規定ヲ適用ス  
補償金額ニ對シ不服アル

者ハ收用又ハ使用ノ通知  
ヲ受ケタル日ヨリ三月以

内ニ通常裁判所ニ出訴ス  
ルコトヲ得

前項ノ出訴ハ船舶ノ收用  
又ハ使用ヲ停止セス

スルコトヲ得  
船舶所有者前項ノ給與金  
額ニ對シ不服アルトキハ  
其ノ通知ヲ受ケタル日ヨ  
リ三箇月以内ニ裁判所ニ  
出訴スルコトヲ得  
前項ノ出訴ハ使用ヲ停止  
セス  
第十一條 第三條ノ認許ヲ

スル船舶ハ航海補助金ヲ  
受ケテ航海スル期間及最  
終ノ航海ヲ終リタル日ヨ  
リ三年間之ヲ外國人ニ讓  
渡シ、貸渡シ又ハ擔保ニ供  
スルコトヲ得ス但シ其ノ  
船舶ニ對シ支給シタル航  
海補助金ヲ償還シタルト  
キ天災其ノ他ノ不可抗力  
ニ因リ航行ニ堪ヘサルト  
キ又ハ主務大臣ノ認可ヲ  
得タルトキハ此ノ限ニ在  
ラス

受ケタル船舶ノ所有者及  
其ノ承継人ハ航海奨励金ヲ  
受ケ航海スル期間並其ノ  
航海ヲ終リタル日ヨリ三  
箇年間其ノ船舶ヲ外國人  
ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入  
書入スルコトヲ得ス但シ其ノ  
船舶ノ既ニ受ケタル航海奨  
励金ヲ償還シタルトキ又  
ハ天災其ノ他抗拒スヘカ  
ラサル強制ニ因リ航行ニ  
堪ヘサルトキ若ハ通信大  
臣ノ許可ヲ得タルトキハ

第十三條 左ノ事項ハ主務

大臣之ヲ定ム

一補助航海ノ起點終點及

寄港地

二使用船舶ノ數總噸數速

力船齡及代船ニ関スル

事項

三航海度數航海日數及費

著日時ニ関スル事項

四航海補助金ノ支給方法

五義務ノ不履行ニ基ク航

海補助金ノ減給停止産

此ノ限ニアラス

止償還又ハ其ノ他ノ處分

ニ関スル事項

第十四條 主務大臣ハ補助

航海ニ従事スル者ノ義務

ニ属スル事項ニ付テハ直

ニ其ノ代理人又ハ船長ニ

命令ヲ下スコトヲ得

第十五條 第十一條ノ規定

ニ依ル船舶ノ收用若ハ使

用ヲ拒ミタル者又ハ第十

二條ノ規定ニ違反シタル

者ハ二百圓以上千圓以下

ノ罰金ニ處シ且當該船舶

第十二條 逋信大臣ハ此ノ

法律ニ依リ船舶所有者ノ

義務ニ属スル事項ニ付テ

ハ直ニ其ノ代人若ハ船長

ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條 詐偽ノ所為ヲ以

テ航海奨励金ヲ受ケタル

者又ハ第十一條ノ規程ニ

違反シタル者ハ一年以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ

二百圓以上千圓以下ノ罰

ニ對シ支給シタル航海補助金ニ相當スル金額ヲ償還セシム  
前項償還金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモトス

金ヲ附加ス  
前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未夕遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處断ス  
第十四條 此ノ法律ニ依リ  
逋信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ニス  
第十六條 詐偽ノ所為ヲ以

テ航海奨勵金ヲ受ケタル者ハ其因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海奨勵金ヲ償還セシム  
第十七條 船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ逋信大臣ハ航海奨勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十六條 明治三十三年法

律第五十二號ハ本法又ハ  
本法ニ基キテ發スル命令  
ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

本法ハ明治四十三年一月  
一日ヨリ之ヲ施行ス  
航海奨勵法ハ之ヲ廢止ス  
但シ本法公布ノ際同法ニ

第十八條 前數條ノ罰則ハ

高事會社ニ在テハ其ノ各  
條ニ掲クル所為ヲ為シタ  
ル業務擔當ノ任アル社員  
若ハ取締役ニ之ヲ適用ス  
第十九條 此ノ法律ハ明治  
二十九年十月一日ヨリ十  
八箇年間之ヲ施行ス

依リ航海奨勵金ヲ受クル  
資格ヲ有スル船舶及同法  
ノ適用ヲ受クル為製造中  
ノ船舶ニ関シテハ明治四  
十七年九月三十日迄同法  
ニ依リ航海奨勵金ヲ受ク  
ルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ航  
海奨勵金ヲ受ケタル船舶  
ニ對シテハ本法ニ依リ航  
海補助金ヲ支給セズ  
明治三十三年九月三十日  
以前ニ於テ帝國船籍ニ登

録  
 シタル外國製造ノ船舶  
 二 関シテハ第四條第二項  
 ノ 規定ヲ適用セス

歐洲航路及米國航路ニ於ケル外國ノ施設調

明治四十年調

歐洲航路ニ於ケル外國航路ノ施設

第一所屬國政府ヨリ補助ヲ受クルモノ

一 英國彼阿會社東洋線

(イ) 航路  
 (ロ) 寄港地

倫敦上海間

ジブラルター、馬耳塞、坡西土、亞典、  
 古倫母、彼南、新嘉坡、香港、  
 二週一回

(ハ) 航海度數  
 (ニ) 使用船

孟買上海間

船名 總噸數  
 八〇九二

速力  
 一六・五

製造年  
 一九〇六

施設一